

# 令和 5 年度 社会福祉法人祥健会 事業報告

## ○令和5年度の大きな介護保険上の課題への対応

今年度は、介護保険法が施行され、制度開始後第8期の最終年度であった。感染症対策の強化の為に、指針を整備し、それに基づく研修と訓練を実施した。業務継続に向けた取組の強化については、災害及び感染症に対する事業継続計画作成の作成を行い、それに基づいて、訓練を実施した。また、無資格者の介護職員については、認知症介護基礎研修を受講させ、全員が修了した。さらに、近年取り沙汰されているハラスメント対策の強化やリスクマネジメントの強化対策として、指針を作成し、虐待防止のための研修会や委員会を開催した。

## ○事業としての取組について

感染症の予防対策を十分に実施しながら、経営の安定のために努力したが、今年度も新型コロナウイルス感染症の侵入を許してしまい、入所者及び介護職員等が罹患し、ショートステイの受け入れを自粛した。さらに、昨年度の新型コロナウイルス感染症の侵入依頼、入所者の補充が進まず、未だに満床となっていないことが、経営に大きな影響を及ぼして来た。新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月から5類へ移行され、ワクチン接種の普及により感染状況も少しずつではあるが、沈静化の傾向はあるものの、高齢者施設に於いては、まだまだ油断できない感染症である事に間違いは無い。

また、大方の研修会や委員会、研究大会等は、Web上での開催が継続されてはいるが、中には、従来の集合型の研修会等も開催され始めているようである。それでも、流行以前に比べたら、少なくなったようである。

今年度は、大きな修繕や工事等はなかったものの、施設整備の経年劣化等による修繕や工事が多発した。また、日本経済のインフレ化により、物価高騰の勢いは止まらず、経営状況に大きく影響を及ぼした。ただ、水道光熱費だけは、昨年度、新型空調設備に更新した効果により、費用の軽減に大きく貢献した。

相変わらず職員の不足は恒常化し、補充しても離職してしまい充足する事はなかった。そして、この事も経営に大きく影響を与えている。

## ○各事業の概要について

法人全体では、▲1,539万円程度の当期活動増減差額が生じた。(前年度より190万円程改善した。)

事業面においては、先にも報告したが、特別養護老人ホームは、昨年度の新型コロナウイルス感染症の侵入により、退所した入所者の補充が未だできなくて、収支を悪化させている。

ショートステイは、昨年度同様、特別養護老人ホームの新型コロナウイルス感染症の侵入により、休業したため、利用率は伸び悩んだが、秋口以降は、在宅介護支援センターの登録者の増加に伴って、少しずつではあるが、改善しつつある。

今年度は、大きな災害は少なかったが、それでも8月の台風6号の接近により、デイサービスでは、送迎ができずに休業せざるを得なかった。年度の前半は、利用率の低迷が継続したが、こちらも、在宅介護支援センターの登録者が増える中で、少しずつ利用者の増加があり、利用率の改善が図られつつある。介護予防総合通所型事業は、1日10人前後の利用率で経過した。新規登録が無いことが継続しているが、当施設でのサービス提供スペースでは、現状が妥当であるとも考えられる。

在宅介護支援センターは、比較的順調に登録者を確保し続け、それにより居宅介護サービス事業へ、好影響を与えた。

グループホームは、ほぼ満床の状態経過し、収支状況は、良好であった。ただ、介護職員の高齢化と人手不足が恒常化しており、今後の経営の不安要素である。

小規模多機能ホームは、介護職員不足を理由として、登録者数を18人程度に押さえて経営を継続したことで、収支は悪化した。

法人内部では、全ての事業所の職員数名が、新型コロナウイルス感染症に感染したり、濃厚接触者と判断されて、勤務を停止され、職員不足に陥り、経営にかなり影響を与えた。

さらに、施設設備の老朽化が進み、昨年度同様、修繕が多く発生した。特に、屋上防水シート劣化に伴い破損箇所が多発した。特殊浴槽も老朽化し修繕額が増加してきている。その他、照明のLED照明化、温水ヒーターの修繕、非常用発電機の修繕、公用車の修繕頻度等が増加してきている。

その他、介護職員の不足は継続しており、継続雇用を行ったり、高齢者の雇用を実施している関係上、従業員の高齢化が進み、配置基準を満たさなくなる可能性の増大と、過重労働の頻度の増大が懸念され続けている。

このように、今年度の法人全体の稼働率及び利用率は、全体としては、昨年度同様、低水準となった。そして、稼働率・利用率の改善、職員の確保は、依然として緊急に改善を要する課題であり、経営に直接影響を及ぼす課題であることには変わりはない。このような状況の中で、施設、設備の適切な維持管理、器具備品の更新等は、継続的に実施して行かなければならず、経営の安定化を如何にして担保して行くかが、最大の課題である。

このような状況の下、次のような事項に取り組んできた。

## 1. 主要事項報告

令和5年度も入所者及び利用者の安全、安心を確保するために、さらに各事業の経営の強化を図るため、下記のことを継続的に実施して来た。

(1) 介護事故防止等に努めた。

- ①介護事故を無くするように努めたが、骨折事故3名（とうごう苑1名、グループホーム2名）、誤嚥事故3名（とうごう苑2名、グループホーム1名）、異食行為1名（グループホーム1名）、その他軽微事故73名（とうごう苑51名、ショートステイ4名、デイサービス7名、グループホーム1名、小規模多機能ホーム10名）であった。
- ②今年度も、面会や入室を規制し、感染防止に努めたが、不覚にも新型コロナウイルス感染症の侵入を許してしまい、入所者、利用者44名（とうごう苑32名、ショートステイ1名、デイサービスセンター3名、グループホーム7名、小規模多機能ホーム1名）が感染した。法人全体では、職員25名（とうごう苑11名、デイサービス2名、グループホーム7名、小規模多機能ホーム5名）が感染した。  
また、インフルエンザに入所者、利用者7名（デイサービス1名、グループホーム6名）、職員3名（グループホーム3名）が感染した。その他、サルモネラ菌（無症状）に職員3名、尿路感染症に入所者12名が、感染した。
- ③身体拘束は行わなかった。虐待も無かった。
- ④褥瘡防止に努めたが、通算で11名が形成し、延べ650日間治療して来た。長い人で188日間、平均59.1日間治療に要していた。現在、2名が治療中である。
- ⑤経管栄養の取扱と痰吸引等の安全性の確保に努め、関連事故は無かった。現在、胃瘻造設者2人であり、年間の痰吸引実施者数17名で、吸引実施回数は、109回（内介護職員実施数46回）であった。
- ⑥入所者、利用者の無断外出は、無かった。
- ⑦送迎時の交通事故等は無かった。
- ⑧服薬のトラブルは、とうごう苑3件、デイサービス1件、グループホーム4件、小規模多機能ホーム1件あり、服薬者の取り違い、飲ませ忘れが多い様であった。
- ⑨それぞれ実施を義務付けられている各委員会の実施状況は、次の通りであった。介護事故防止委員会26回、感染症予防委員会37回、身体拘束廃止委員会17回、褥瘡予防委員会15回、痰吸引委員会9回と、義務づけされている回数以上の回数を開催し目標を達成した。
- ⑩各種研修会には、延べ75名（とうごう苑36名、デイサービス12名、支援センター15名、グループホーム0名、小規模多機能ホーム12名）を参加させ、知識・技術の習得や自己啓発の発揚等を行った。

(2) 介護の質を充実させることに努力した。

- ①食事の経口摂取の維持支援と摂取量の確保に務めているが、高齢、重度化により思うような効果が出せていないようである。
- ②口腔ケアの充実については、実施状況をチェック表に記録させ、その充実を図り続けた。
- ③排泄方法の改善については、入所者に会った、おむつ交換の時間帯に変更したり、昼間と夜間の排泄方法を変えてみたり、さらにおむつの種類の変更を検討したりしている。
- ④認知症高齢者への対応力の向上については、研修会へ参加させ知識の向上に努めた。
- ⑤接遇マナーの向上については、内部研修等で、研修を行ったが、入所者への言葉遣い等で不適切な対応があった。

(3) 職員確保に努めた。

- ・新卒者採用2名、中途採用5名（非常勤含む）であり、十分とは言えないが、ある程度の確保はできた。うち男性介護職員は、2名であった。一方、離職者は、12名であった。

(4) 利用率と稼働率の維持・向上に努めたが、目標に達した事業は、居宅介護支援事業所とグループホームであった。

- ・特別養護老人ホームの年間の稼働率は、目標97%に対し84.5%と昨年度より低下した。
- ・ショートステイの利用率は、目標60%に対し52.4%と昨年よりも向上したが、一日の平均利用者数7.2人には及ばなかった。6.3人であった。
- ・デイサービスの1日の利用者数を13人以上とすることに努め、13.2人と目標を達成したが、稼働率は、52.8%であった。
- ・介護予防総合通所型事業は、月毎の延べ利用者数を260人以上として活動したが、227人であった。
- ・居宅介護支援事業所の月毎のプラン作成依頼登録者を、要介護者に絞り、目標105人以上とするように努め、登録者数102.4人止まりであったものの、一昨年度以前に比べたら、かなり高い登録者数であった。
- ・グループホームは、稼働率を99%以上と目標を定め経営し、98.4%と未達成となったが、比較的高い稼働率であった。
- ・小規模多機能ホームの月毎の登録数を、20人以上とすることを目標としたが、登録者数は17.7人で昨年度を下回った。

## 2. 努力事項

介護の質を高めるために、以下の事項に取り組んできた。

(1) 介護技術の向上に努めた。

各事業所でスタッフ会議等の後に研修を行った。

- (2) 苦情・相談への対応については、9件（とうごう苑1件、ショートステイ4件、支援センター3件、グループホーム1件）で、面会に関する事、ケアマネに関する事、利用票の修正ミス、サービス提供キャンセル忘れ、排泄に関する事項、持参物の返却ミス等であった。それぞれについて、真摯に受け止め、謝罪し、改善を行った。

- (4) 老朽個所の修繕及び保全については、高額のものでは、とうごう苑の非常用発電機の蓄電池交換、特殊浴槽の修繕、屋上防水

シート破損箇所補修工事、温水ヒーター部品交換、照明設備取替工事、小規模多機能ホームの配水管水栓取替え工事、グループホームの浴室給湯配管取替え工事等を実施した。

- (5) 施設周辺の環境整備については、昨年度に続き、雑務員が、業務の合間々々で作業をしてくれた。また、年2回の施設内外の環境整備は、新型コロナウイルス感染症蔓延のリスクが高かった為、本年度も職員だけで実施した。さらに、職員の協力による年2回のフロアワックス掛けを実施した。

### 3. 地域における公益的貢献の取組状況について

今年度の当法人の取組状況は、

- ①入所者で年金受給額の低額者へ負担金の減免を実施した。減免額は、159,624円であった。
- ②地域の清掃活動へ、職員が参加した。
- ③地域の福祉運動会へ、職員がスタッフとして参加した。
- ④福祉施設避難所に指定されている。

このような内容であった。

以上